



クリストフ・ソーターの「ビヤンヴェニコ・アン・スイス」

ジュネーブの学校の入学式と卒業式

スイスでは新学年がちょうど今始まりました。2ヵ月の休み以後、初等

および中等学校の子供たちは、8月末に再び学校に通い始めます。実際、スイスの学年度は8月末から始まり、7月初めに終わりますから、日本の場合のように4月からは始まりません。今回はスイスと日本の入学式と卒業式について話したいと思います。実は、鏡野町に来て以来、幼稚園、保育園、そして小学校の入学式と卒業式に何回も招待していただいて、驚いたことが多くありました。

まず、入学式です。初めて入学（入園）式に参加したのは郷幼稚園でした。スイスの幼稚園の場合からみると、子供たちはいつでも入園できて、日本のように歓迎する特定の式典はありませんので、幼稚園でも行うことには本当に驚きました。そして、保護者と先生が真剣に参加し、子供たちが新しい仲間が早く作れるように参加者の前で挨拶するときに、涙する保護者が多かったのも感動しました。しかし、子供たちが本当にこのような式の意味を理解しているかどうか自問しています。ともかく、とてもいい思い出になりました。

スイスの小学校の場合も、日本で行われるような入学式が一般的にはありません。学校の始まりの日、子供たちが先生と会って、保護者と短い挨拶が終わったら、授業がすぐに始まります。日本ではずいぶん前からちゃんと計画した入学式で新しい子供たちを大歓迎し、やはり初めて会った学校の先生や子供たちと知り合いになるためには、こういう式はとてもいいと思ってきました。

入学式がないと言っても、スイスの学校では学年中に行事を一度も行わないわけではありません。たとえば、ジュネーブ市の全ての幼稚園と小学校の卒業式は16世紀くらいから行われていたそうです。子供たちは自分の学校からジュネーブの大聖堂まで行列を作って歩き、その場所で厳粛な式はジュネーブ市当局や宗教当局の面前で行われました。

19世紀の中ごろから、卒業式後の昼食会がジュネーブの全体の幼稚園のために、バスティオン公園（Parc des Bastions パルク・デ・バスティオン）で準備されていました。大聖堂からバスティオン公園まで、幼稚園の子供たちが行列を作って、自分の学校を象徴する衣装を着て、ジュネーブ旧市街を歩いていました。小学校の昼食会はそれぞれの学校で行われていました。



Quartiers de mémoire: Jours de Fête (http://www.1227.ch/Pervenches/Dossiers/JoursFete/JdF_01.htm)

しかし、大聖堂で行われていた式は、1981年に人民投票で中止されました。そして、1998年に開催方法がまた変更され、今は幼稚園の行列だけを行って、毎年衣装のテーマを決めています。小学校の卒業式はそれぞれの区の公園や学校施設で行われ、1998年から2000年までは、6年生はジュネーブのコンサートホール（ピクトリア・ホール Victoria Hall）で初等学校教育の終わりを象徴する辞書の授与式が行われていました。しかし、この式典は2000年にまた廃止されました。今は、日本のようにジュネーブの小学校の卒業式は各学校の施設で行われますが、日本で行われるような厳粛な式というより、賑やかな卒業パーティーみたいだと言えます。とにかく、鏡野町のそれぞれの学校の行事に参加すると、やはり日本と比べたらスイスの学校の伝統的な行事は段々減少され、本当に残念だと思います。

最後に、フランス語では入学することを「La rentrée、ラ ラントレー」と言います。2学期頑張ってください。

では、皆さん、また来月によりしくお願いします。

鏡野町立図書館内に久保田千太郎コーナーができました。

鏡野町立図書館内に、町出身の作家久保田千太郎氏より多くの著書をご寄贈いただき、新しく久保田千太郎コーナーを設置しています。

内容は、コミック版で親しみやすいです。ぜひ、ご覧ください。

- ・『鬼平犯科帳』・『水滸伝』・『忠臣蔵』・『墨攻』・『血闘!新選組』・『新説新選組』
- ・『信長・秀吉と蜂須賀小六』・『風雲天下盗り』・『森一族』・『秦始皇帝』・『母の曠野』
- ・『武田信玄』

計148冊



久保田千太郎氏 略歴

- 本名 井上知士（いのうえともあき）
- 現住所 東京都文京区
- 昭和17年7月26日、鏡野町下原に生まれる。
- 昭和41年早稲田大学第一文学部卒業。
- 三島由紀夫主宰の劇団NLT演出部に所属し劇作を学ぶ傍ら、NHKや民放の台本を多数執筆。三島の没後独立し、戯曲・TV脚本・劇画原作など、多くのジャンルの創作活動をして現在も一線で活躍中。

特に歴史物の作品の格調の高さは他に並ぶものがないといわれ、海外でも出版・映画化されるなど国際的にも高い評価を得ている。氏の脚本による出版物の国内発行部数はすでに三千万部にも達する。

- 日本脚本家連盟会員、日本放送作家協会会員
- 代表作 TVドラマ脚本・『命のピザ』（フジテレビ）
- 劇画脚本『墨攻』（小学館）（平成18年、日・中・韓の合作で映画化）ほか多数